

北般若だより

2026 年(令和 8 年)7 月 1 日
第 352 号
北般若自治振興会
北般若公民館

出町市長の「まちかどトーク」



出町市長が高岡全地域を巡る、『まちまわり「まちかどトーク」』が6月7日北般若公民館にて開催されました。

地域の将来について住民と市長が語り合うことが目的での開催です。43名の方が市長・市職員よりの「空き家対策について」と「高岡市の人口ピラミッド」の説明に対し質疑応答し、その後は意見交換が行われ市長が答弁しました。一部紹介します。



【空き家に関する主な相談】

参加者:◎瓦の落下、草木の繁茂、動物の侵入など管理不全の空き家への不安◎所有者死亡後、相続人と連絡が取れないケース◎複数の課にまたがる相談窓口問題への総合的な対応を要望する。

市の回答:◎建物の危険性は建築政策課、草木問題は環境政策課が窓口◎所有者や相続人を調査し、助言・指導を実施◎危険な場合は安全確保のためバリアード設置などを行う◎空き家バンクの活用を進めており、成約件数は増加◎今年度、市内全域の空き家実態調査を実施の予定。

市長コメント:◎空き家問題は今後さらに深刻化すると予想される◎行政代執行は財政面の課題が大きく、慎重な対応が必要◎空き家の利活用を含め、地道に対策を進めていく。

【意見交換】

参加者:【産業団地開発と企業誘致について】地域経済の活性化や新規雇用の増大につながる大きな事業であると考えるが。

市長:「高岡市の将来を左右する重要事業」と位置付け、企業誘致を積極的に進める考え。市の何十年先をも左右する自身の重要な責務である。

参加者:【子育て支援施設・武道館について】利用者目線に立った施設配置を求める。
市長:「利用しやすさを重視した施設整備が重要」と認識し進めていくと回答。



参加者:【歴史・文化資産の保全について】前田利長公墓所の整備を要望。

市長:高岡の歴史資産を磨き上げ、まちの魅力向上につなげたいと述べた。

空き家対策、高齢者見守り、公共交通、若者定着、産業振興、歴史資産保全など幅広い意見や要望が出され、市長は、人口減少対策と地域活性化を最重要課題とし、市民と協力しながら取り組んでいく考えを示しました。

「更生保護」 知っていますか？

更生保護とは、罪を償い再出発しようとする人達の立ち直りを導き助け、再び犯罪や非行に陥るのを防ぐ仕組みで、保護司とはそれを地域で支える民間のボランティアです。現在、高岡市保護司会には89名在籍し、戸出地区には5名在籍しています。

毎年7月は、「社会を明るく運動の強調月間」です。犯罪や非行の無い、安全で安心して暮らせる地域社会を築くための全国的な運動です。当地区でも、更生保護女性会の皆さんとミニ集会を設け、更生保護のPR活動を予定しています。

保護司 林 光彦

戸出東部小学校教育振展会会長 就任挨拶

山本睦男前会長に代わり、新会長に就任しました玉井邦昭です。戸出東部小学校校下の皆様のご理解とご協力の基、児童の学習環境の整備・改善・維持に努めていきます。

玉井邦昭

北般若地区等の動き

7/3～7/7 戸出七夕まつり

7/16 なのはな元気教室



今年の自主防災会でも新発見！

西部金屋は一本化した自主防災会を立上げて3年が経過。一年目の夏には高岡市でも線状降水帯、1月は能登半島地震と大きな災害に見舞われた。地震の際は至急の安否と被害状況の確認が急務であった。

二年目は、安否確認の運用(災害時、家の代表が安否を示し、班長が確認して会長へ報告する)を防災マニュアルに落とし込み全住民へ周知した。

三年目の今年は、5月24日に54名の出席者を迎え4部構成で自主防災会を開催した。

1部:安否確認訓練の要件は、震度5弱以上、今回9時に発生として、各戸の玄関先に安否確認タオルを掲示。班長が10分後からそれを視認して回り、届出避難所の交流センターで情報を共有した。地震発生後30分で115軒中97軒85%の安否が確認できた。残り15%の初動を防災会内で分担して担うことで減災の手立てとなる実効性がみえたことは大きく、来年以降も毎回実施を繰り返して習慣化していく。



2部:避難行動要支援者の避難訓練

現在集落で6名を要支援者と登録している。また市の補助金で2台の車椅子を購入して2名の方を近隣支援者により30分で避難所へ送り届け、課題を検証した。今後他の4名の方も試行する。



3部:炊き出し訓練

災害時の物資難を想定し、家庭内にある食材を持ちより包装食袋に封入し湯通しした炊き出しを全員で食した。



4部:災害時のトイレ事情の講演

災害時に情報共有されていないトイレ事情がある。梅島防災士と防災クリエイターにより身に詰まされる実情を、新聞紙を丸めた「しんぶんうんち」でリアルに体感した。



災害は忘れたころにやってくる。日頃から習慣化しておくことが減災に繋がることを！ 西部金屋防災リーダー

西部金屋の由来と史跡めぐり①

5月31日西部金屋交流センターにて「西部金屋の由来と史跡めぐり」が開催され、鋳物師にまつわる歴史や史跡について教わり、地元の林家に代々受け継がれている文化財「梵鐘竜頭木型」・「鋳物師職許状」など実物も見学してきました。



◆**西部金屋の名前の由来:** このあたりは、平安時代から戦国時代まで般若郷とよばれ、京都の公家・徳大寺家の荘園(私有地)でした。荘園の管理単位で「西保」と呼ばれ、金屋(鋳物師の仕事場)が置かれた場所に由来するそうです。

◆**鋳物造りが盛んだっころの庄川:** なんと、当時の庄川は一本ではなく、網の目のように分流し、西部金屋のすぐ近くを流れていた千保川を使って、物資は船で運んでいました。現在の石丸神社あたりが船着場だったそうです。

◆**今も残る西部金屋鋳物師が造った梵鐘:** 前田利長公が慶長16年(1611年)に、7人の鋳物師を高岡に呼び寄せたのは有名な話ですが、西部金屋に残った鋳物師たちも鉄砲・大釜・梵鐘などを作り続け、砺波市福岡の厳照寺の梵鐘には寛永15年(1638)に西部金屋鋳物師によって作られたことが、はっきりと刻まれているそうです。

◆**鋳物師ゆかりの寺 光證寺:** 西部金屋の鋳物師は、古くから浄土真宗(真宗大谷派)の熱心な門徒として知られ、前田利長公が高岡に呼び寄せた7人の鋳物師のうち6人が光證寺の門徒だった。今でも金屋町には鋳物師の流れを汲む門徒が多く、昔は金屋町から西部金屋まで徒歩でお墓参りをされたそうです。毎年お盆にはお墓参りをされています。

◆**今昔マップ on the web:** 指先ひとつで地元をタイムトラベルできる、無料のウェブサイトも紹介いただきました。画面を動かすと、明治期の古地図と現代の地図が連動。例えば富山県高岡市の戸出西部金屋を検索すれば、「えっ、こんなところに道があったの?」といった驚きが連発。ぜひ、皆さんもスマホやパソコンで「今昔マップ on the web」と検索してみてください。林 武一 ※次月号「西部金屋の由来と史跡めぐり②」に続く。